

TRY ICT やすぎ

ICTを活用した教育で学校や教室が変わる様子をシリーズでお伝えしています。

タブレット端末を 文房具に

2学期が始まった令和3年8月31日、安田小学校の1年生は初めて使うクロームブック(以下、タブレット端末。)を開き、ログインIDとパスワードを打ち込みました。生活科の「生きもの大すき」の単元で、



▲カメラの代わりにタブレット端末を持ち出し、草むらにいる虫を撮影する児童(安田小学校)。

タブレット端末のカメラアプリを使って学校周辺に生息する虫たちを見つけ、写真を撮ってくる活動です。

思い思いに草むらに入り、動き回る虫の画像をタブレット端末に収めます。虫の苦手な子も距離を保ちながら撮影し、教室に帰ると撮った写真をファイルで共有。虫たちとの心の距離も縮まってきました。

一人一台のタブレット端末を生かし、ICTの活用が特別なこととなく「当たり前」のこととなるようにする「令和の日本型学校教育」の構築を目指した大きな改革。これが国(文部科学省)が推進する「GIGAスクール構想」です。

安来市内の小中学校では、「TRY ICT やすぎ」をキャッチフレーズに、子どもたちや教職員がタブレット端末を文房具として自由な発想で活用し授業をデザインしています。

多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、一人一人に合った学びができる学校教育の実現に向けて、すべての小中学校で取り組んでいます。

問い合わせ

学校教育課 ☎23・3180

小中学校の適正配置に向けて

～推進会議が基本方針の提言書を提出～

安来市教育委員会では、未来を担う子どもたちのより良い教育環境の方向性を検討していくため、「小中学校適正配置基本方針」の策定を進めています。

この基本方針を定めるにあたっては、学校関係者や社会教育関係者等からなる安来市教育政策推進会議(会長 作野広和 島根大学教授)を設置して検討を進めてきました。

このたび、推進会議の検討結果が提言書として取りまとめられ、令和3年12月12日に日作野会長と加藤喬副会長(安来市交流センター連絡協議会副会長)から秦誠司教育長へ提言書が手渡されました。

この提言書をふまえ、教育委員会で協議をし、令和3年度中に基本方針を決定していきます。

今後は令和4年度～5年度にかけて、基本方針をふまえた基本計画を策定することと

しています。基本計画の策定にあたっては、新たに検討会議(仮称)を設置します。保護者や地域の人からも意見をいただき、学校や家庭、地域行政が一体となって、これからの子どもたちの教育環境を検討していきます。

問い合わせ

教育総務課 ☎23・3138



▲提言書の提出。作野会長(中央)と加藤副会長(左)。